学校の教育目標：やさしく かしこく たくましく　経営方針：心の宝物に満ちた学校に

かさはら TEAM

令和 4 年度
笠原小学校
学校便り
10 月 27 日号

児童会：誰もが楽しい笠原小学校を創りあげていくために、思いやり・ルールを大切にしよう

つながる「優しさの環」

校長　鈴木　稔朗

5年生の宿泊研修が終了しました。秋の彩り豊かな根の上高原で、オリエンテーリング、ボート、グラウンドゴルフ、キャンプファイヤー、野外炊事。多くの児童にとっては、ほとんどが初めて体験する活動だったことでしょう。しかし彼らは怯まず、全てに生き生きと挑戦しました。「自分の殻を破った」と、多くの子が感想を述べるほど、全員で盛り上げたキャンプファイヤーで、アンコールまで熱唱した「やってみよう」の歌詞そのままに。二日目朝の掃除や話の聴き方では、いつもの力がいつものように発揮されました。聴く姿勢や反応のよさに、指導者の方には「こんな学校はない」とまで言っていただけました。そのことを、「え、あたりまえなんじゃないですか？」と、むしろ意外そうに受け止める反応もまた、頼もしいものでした。

日常で培った力が非日常で発揮され、非日常で突き抜けた経験が、力となって日常で活かされる。彼らは素晴らしい二日間を実現しました。体調の都合で、残念ながら全員で完走することはできませんでした。しかし、事前の準備も含めた日常が成功の要因です。その意味で、この二日間は、学年全員で創りあげた財産であり、チーム笠原全員の宝物です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

先日、連絡帳に、次のような大変嬉しいお便りをいただきました。担任が喜びと共に朝一番で伝えてくれました。一読して温かい気持ちで胸がいっぱいになりました。

> 昨日、お友達と公園で遊んでいてぶつかったようです。（中略）娘がけがをしたとき、その場にいた上級生の女の子達が「大丈夫？」と声をかけてくれたそうです。また別の男の子は家に帰ってお母さんを呼んできてくれたと。そのお母さんが傷の手当てをしてくださいました。娘と一緒に遊んでいた子のお母さんは私に状況がわかるように手紙を書いてくださいました。本当に皆さんに助けられ、ありがたい気持ちでいっぱいです。手当てをしてくれた方は主人の知り合いで、連絡を取ることができました。いつも感心していますが、本当に笠原の子は優しいですね。娘にも、人に優しく、困っている子、泣いている子に声をかけられる人間になってほしいなと思いました。

けがをした下級生に寄り添い、声をかけてくれた子、その状況から手当が必要と判断し、自宅へ急を告げるという行動に踏み切ってくれた子、急ぎ駆けつけ、手当てしてくださった保護者の方、けがをした子のお家の方の心を思いやり、経緯をお手紙にしてくださった保護者の方、お世話になった方にお礼を伝えられ、更にその思いを、丁寧な長文で、学校に伝えてくださったその子のお母様。連絡帳のそのお気持ちを喜び、私に報告してくれた担任。学校からも、お便りで、けがの治療で、細やかな連絡で、優しさをつないでくださった保護者の方にお礼を申し上げました。ここに、彼女を真ん中に置いた「優しさの環」がつながりました。彼女のけがは痛ましい出来事です。その彼女の痛みや悲しみに、精一杯寄り添おうと決意し行動した児童、保護者の方、学校。関係した人全員の思いが完全に一致しました。

お便りに記されているように、笠原小の児童は本当に優しい人たちです。面倒でも頑張ろうとする力が、自分とのちがいを、うけとめ折り合おうとする力が伸びています。その伸びを力強く支えてくださっているのは、学校を信頼し、喜びを共にしようとしてくださる保護者の方の温かさと、常に学校に絶大なご理解とご協力をくださる地域の皆様の温かさです。

決してあたりまえではない素敵な日常を「あたりまえだよ」と言い切る、強く優しい子どもたちを、どうかこれからも共に見守っていただきますよう心よりお願い申し上げます。